



100歳間近 最高齢の現役薬剤師

地域住民と顔なじみの関係に

比留間榮子さんは11月に100歳を迎える世界最高齢の薬剤師だ。現在も週に1日、木曜日にはヒルマ薬局小豆沢店(東京都板橋区)で孫の康二郎さんと共に働く。戦争を経験し、「酸いも甘いも経験してきました」と話す。『榮子先生』のことは、薬とあまり関係がない人生相談まで持ちかける地域の人たちもいるのだとか。薬剤師のレジエントである比留間さんに薬局や薬剤師があるべき姿や、地域住民に信頼されるための秘訣などを聞いた。

ヒルマ薬局 比留間 榮子さん

比留間さんは1923年11月6日に東京で生まれた。戦時中の4年に東京女子薬学専門学校(現明治薬科大学)を卒業し、薬剤師歴は80年近くになる。95歳となった2018年にはギネス世界記録「最高齢の現役薬剤師(The Oldest practising pharmacist)」に認定された。

比留間さんの父が東京池袋でヒルマ薬局を創業。比留間さんは100歳になるまで薬剤師を続けるなんて夢にも思っていなかったと語った上で、これまでの人生で最もつらかったという戦争体験について語った。

「私が若かった頃は、食糧不足の時代で、食べるものも苦労しました。戦争中には薬局を開くこともできなかった。太平洋戦争が激化し、爆撃機のB29が毎日のように東京に押し寄せ、東京大空襲の直前に父の実家がある長野県上田市に疎開した。

そして、45年8月に終戦を迎えた。「上田にいても仕方ない、東京に戻ろう」と父の言葉を受け、47年に上田から東京に戻ったが、既に薬局と自宅は焼失しており、一面が焼け野原に変わり果てていた。

比留間さんは今でもその光景が忘れられない。「嘘のような本当の話のだけど、東京が焼け野



ヒルマ薬局小豆沢店

原となったので、北池袋からずっと先にある東京湾が見ることができた。「戦争は怖い。あんな経験は二度としたくない」と話した。

戦後、池袋に現在のヒルマ薬局を作り、小豆沢に2号店を開局。小豆沢店では康二郎さんが四代目の薬剤師として活躍している。

薬局が地域医療支えていた

患者の症状聞き薬で対処

小豆沢店では営業開始となる朝9時から患者が薬局に集まってくる。比留間さんが考える理想の薬局像は、

地域の人の顔なじみになれる薬局だ。

患者のた

が顔なじみの関係を構築するために何をすべきなのか。そんな質問をぶつけてみると、「今は近所の医師に行くのだから、昔は医師や病院が少なく、かぜを引いたときには薬局に行くのが当たり前だったのよ」と教えてくれた。

しらすと、良くなってきたら様子を見て、身体がだるくなってくれば何か薬を付け加えて調剤をすることをしています。薬包紙で包んで渡していたの」

薬局で診た患者を病院につなぐ場合については、「薬を出した後になかなか熱を下がらないと

足を押折して入院したためしばらく薬剤師の仕事を手を休んでいたが、週1日薬局で勤務するまでに回復した。趣味の旅行はなかなか行けなくなったが、地域とのつながりが大きな生きがいとなっている。

「10年以上もヒルマ薬

局を利用している方も多くいます。私を見つけると『また来たわよ』と声をかけてくれるの。幸いなことに、薬局には椅子が多くありますし、『ちょっと疲れたのでしょ。少し休んでいって』と話しかけるようになっています。『これまで言ってくれる薬局はほかにないわよ』というやり取りがあって薬局を訪れる人たちと親しい関係となりました」

その上で、地域に根付いた薬局が持つ魅力も語ってくれた。「未だに顔見知りが多いのは、ヒルマ薬局が地域に根付いている薬局だから。例えば、チェーン薬局のようには大きな薬局は多くの店舗を持っているので、1年もすればその店舗にいる薬剤師は別の店舗へと異動してしまします。その店舗で長く働いている薬剤師さんでなければ、地域に住んでいる人たちは、なかなか顔なじみにはなりにくいですよ」

必要なスキルは相談応需

医療と生活面からサポート

これからの薬剤師に必要なスキルは処方箋応需ではなく相談応需という。

ヒルマ薬局では「医療食支援」を提唱し、現代は薬だけでは治らない病気が増えているのを背景に、その人の生活や生活を医療の側面

と生活の側面からしっかりとサポートしていきたいという理念がある。開業以来10万人以上の相談実績を持つ。

比留間さんは、「相談があるんだけどいい？いいわよ、どうぞって。身の上話の相談に乗ったりもしています。叱

咤激励をしたこともありません。怒るのではなく押しつけをせず、話を上手に聞いてあげたら、喜んで帰っていくのよ。難しいことは話さないけど」と笑顔で話してくれた。

仕事で心がけていることは「同じことを繰り返

し行かないこと。1回で覚えるのは難しい。この年になると1度聞いたことも忘れてしまう。右から左ではなく、大事なことは書き止めるようにしている」という。

今後の目標を聞くとシンプルなお返しが帰ってきた。「1つのことを頭にに入れて地道にやってみよう」とです。簡単なことですがそれを続けていきたいです」

患者のた

めは、一門前から地域へが提唱されている。地域で暮らす人たちが薬局薬剤師

が顔なじみの関係を構築するために何をすべきなのか。そんな質問をぶつけてみると、「今は近所の医師に行くのだから、昔は医師や病院が少なく、かぜを引いたときには薬局に行くのが当たり前だったのよ」と教えてくれた。

患者が訴える症状を聞き、それに対処可能な薬を出すのが薬剤師の仕事だということ。「咳が出るのか、熱が出ているのか、寒気がするのか症状を尋ねて、咳止めの薬や解熱剤の頓服として、例えば3日分を薬局でこ

と生活の側面からしっかりとサポートしていきたいという理念がある。開業以来10万人以上の相談実績を持つ。

比留間さんは、「相談があるんだけどいい？いいわよ、どうぞって。身の上話の相談に乗ったりもしています。叱

咤激励をしたこともありません。怒るのではなく押しつけをせず、話を上手に聞いてあげたら、喜んで帰っていくのよ。難しいことは話さないけど」と笑顔で話してくれた。

仕事で心がけていることは「同じことを繰り返

し行かないこと。1回で覚えるのは難しい。この年になると1度聞いたことも忘れてしまう。右から左ではなく、大事なことは書き止めるようにしている」という。

今後の目標を聞くとシンプルなお返しが帰ってきた。「1つのことを頭にに入れて地道にやってみよう」とです。簡単なことですがそれを続けていきたいです」

JAPIC 医療用医薬品集 2024

2023年9月発売



- ◇ 国内流通全医療用医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします。
- ◇ 約50年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◇ 2023年6月後発品まで掲載。
- ◇ 一般名の五十音順で項目を配置し、先発品と後発品の効能・用法の違いを一目で把握できます。医薬品の選択にご活用下さい。
- ◇ 「薬剤識別コード一覧」を掲載。
- ◇ 更新情報メールの無料提供(要登録)。 ◇ CD-ROM付。
- ◇ 分冊にて制作し、本文が見やすく・調べやすくなりました(ケース入り)。

ISBN: 978-4-86515-218-0 B5判 約4,600頁(本文) 価格 14,300円(税込)

JAPIC 一般用医薬品集 2024(要指導医薬品を含む)

2023年9月発売



- ◇ 医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬団体連合会(日薬連)と連携し、最新の一般用医薬品添付文書を網羅的に収集。
- ◇ 付録として、
 - ・ 国内副作用報告の状況
 - ・ 重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー他)
 - ・ セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)対象品目一覧
 - ・ リスク区分情報
 - ・ ブランド名別成分比較表 等を収録。

ISBN: 978-4-86515-219-7 B5判 約2,000頁 価格 9,900円(税込)

編集・発行 一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC

FAX 0120-181-461 TEL 0120-181-276

発売 丸善出版株式会社

FAX 03-3512-3270 TEL 03-3512-3256

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/